

第17回結核戦略・技術諮問グループ(STAG-TB:Strategic Technical Advisory Group for Tuberculosis)会議



結核予防会結核研究所
国際協力・結核国際情報センター
センター長 山田 紀男

今年のSTAGは、ジュネーブWHO本部で6月12日から3日間開催され、引き続き2日間、結核高負担国対策会議（3rd End TB Strategy Summit for National TB Programme of the Highest TB Burden Countries）が開催された。予防会からは本部国際部長岡田と筆者が参加した。

STAG会議の議長は、第18回国際結核セミナーの講師に招へいされたIbrahim Abubakar氏（現ロンドン大学教授）が務められた。会議の前半では、この一年の動向・成果についてWHOより報告があった。その一つとして、近年発行された診断技術や新しい薬剤の導入等多くのガイドラインがWHOより発行されているが、それら最新のガイドラインをまとめたWHOガイドラインと関連した関連したスタンダードの便覧（Compendium of WHO guidelines and associated standards）を作成していることが紹介された。今後電子版が公開されるということであり、これは最新のガイドラインの重要な点を理解するに有用と思われた。

次に今回のSTAG及び高負担国会議での特別テーマを紹介する。2016年12月の国連総会で、2018年に結核に対する国連ハイレベル会合を開くことが決議され、それに先がけて2017年11月にモスクワにおいてWHO大臣級結核対策世界会合（WHO Global Ministerial Conference, 以下モスクワ会議）が開催されることになっている。ハイレベル会合では、保健分野では過去にエイズ、NCD（非感染性疾患）、AMR（耐性菌）、エボラ出血が取り上げられているが、結核が取り上げられるのは初めてである。今回の会議では、ロシア保健省とWHOが主催するモスクワ会議についての情報共有及び討議があった。

モスクワ会議のテーマは”Ending TB in the Sustainable Development Era: A Multisectoral Response”（持続可能な開発時代における結核の終焉

を目指して：セクターを超えた協働）であり、結核問題・対策とSDGsとの関係を強く意識している。結核を含む保健分野Goal3は、他分野Goal（貧困）、7（エネルギー）、11（まちづくり）、2（飢餓）、4（教育）、8（雇用）、10（平等）と関連したものと捉えられており、保健分野だけでなく多分野の協働を通じて各国における結核対策推進を目指している。

このモスクワ会議では、各省の枠を超えた結核推進に関する共同声明文が承認されることを目的としている。この宣言文の草案は、Webでも公開されたが、次の4項目が検討されている。

- 1) Advancing TB response within UHC, AMR and SDG agenda（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、薬剤耐性課題、持続発展目標課題の枠組みでの結核対策の推進）
- 2) Increased and sustainable financing（予算の増加と維持）
- 3) Scientific research and innovation,
- 4) Multisectoral accountability framework（分野を超えた取り組みにおける担うべき責任のフレームワーク）

これらは保健分野だけでなく、財政や開発を含む幅広い協力体制が求められるため、194の全国連加盟国から数名の大臣（保健省と財務省など他省庁）が招待され、さらに市民団体・学術・技術・等のパートナーも招待される。会議は2017年11月16,17日に開催される。本会結核研究所からは、所長の加藤が参加する予定である。

モスクワ会議、ハイレベル会合により、End TB（結核終息）に向けた世界的な動きが強化されることが期待されます。🐼